

# 京王電車沿線名所図繪

## 東京より多摩御陵参拜近道

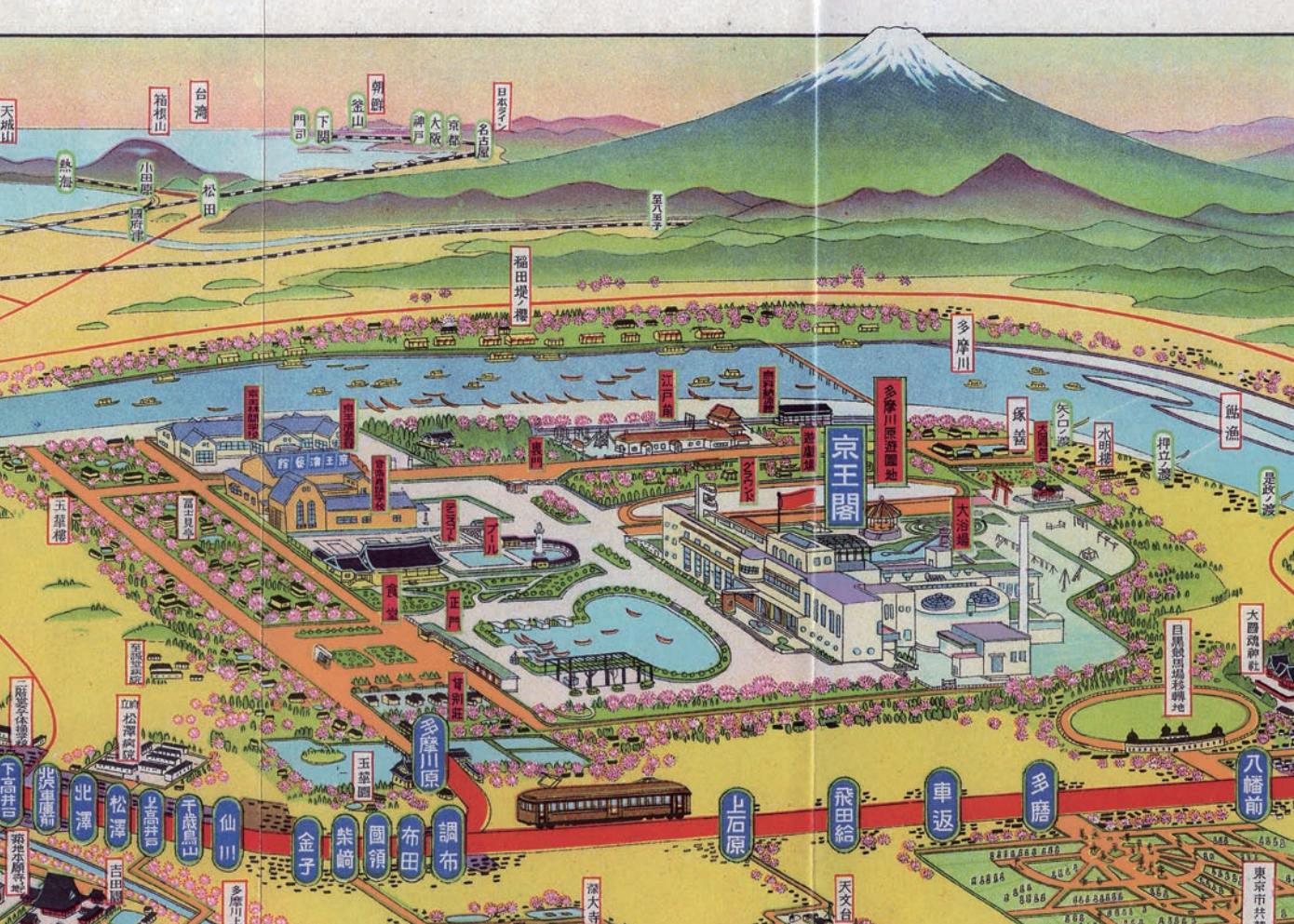
文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

京王電気軌道(現在の京王電鉄)と吉田初三郎のかかわりは、大正期に始まるようだ。京王沿線図の依頼を受け、作品をものせんとしていたところ、大正十二年九月一日、関東大震災が発生。東京鮫洲の画室と銀座の店舗が倒壊。失望した初三郎は「志を果たし得ず、心中私かに之れを遺憾とせしに、今や再び本社の懇囑にあふて(絵に添へて一筆)」のとおりに、震災後、スポンサーの再依頼を受け、また名鉄の支援で日本ライン木曾江畔の蘇江仮画室を本拠地に、再出発を図ったのである。

その数年後の昭和二年十二月二十八日印刷、昭和三年一月一日に念願の「京王電車沿線名所図繪」を刊行。図柄は、四谷新宿、東八王子の路線と多摩御陵(大正天皇陵墓・昭和二年設立)までの予定線を横長軸に、新宿御苑、浄水池、十二社、明治神宮、井ノ頭公園、深大寺、東

藤本一美  
首都大学東京(都立大学)非常勤講師。日本国際地図学会常任委員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。  
近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。近著に『旅と風景と地図の科学II』(2006年)がある。



『京王電車沿線名所図絵 [東京より多摩御陵参拝近道]』  
(昭和5 (1930)年)

鉄筋コンクリート3階建て、総坪1200坪の広さを誇り、「東京の宝塚」と称された京王閣が中心に据えられている。表紙には多摩御陵、裏表紙には京王閣を訪れた親子連れが描かれた。  
(写真提供：八王子郷土資料館)

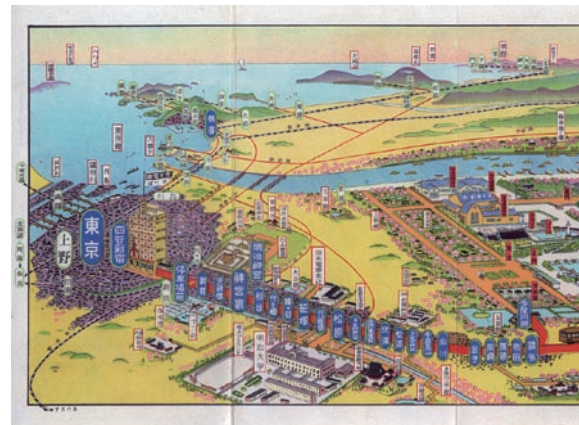
創立：明治43年9月  
設立：昭和23年6月1日  
本社：東京都多摩市関戸1丁目0番地1

### 京王電鉄株式会社 Keio Corporation



### あなたとあたらしいあしたへ

前身は京王電気軌道株式会社。戦中戦後の合併・分割を経て、昭和23年、京王帝都電鉄株式会社として新たに発足、会社設立50周年を機に現社名に改称した。笹塚～調布間開通に端を発した京王線は平成20年に開業95周年、井の頭線は73周年を迎える。現在、運輸業を中心に流通、レジャーサービス、不動産など43社からなる京王グループでは「あなたとあたらしいあしたへ」の合言葉のもと、生活創造産業を目指し、多角的に事業を展開している。



京市共葬墓地（現多磨霊園）、京王閣、高幡不動尊、百草園、高尾山などの沿線名所を立体的に描画していて楽しい彩色図となっている。

当時のターミナル周辺は、今は廃止の路面走行だった。京王閣は、昭和二年に京王電気軌道が開館した演芸場、温泉付きの遊園地。対岸の桜の名所稲田堤は行楽客で賑わう所。背後の百草園、高幡不動尊、さらに桜と紅葉と山岳信仰の霊場高尾山薬王院や多摩御陵を緻密に模写した作品である。

ところが、その二年後、蘇江新画室で描画、昭和五年秋に刊行したのが本図である。再版、いや改版として描き直し。それも前版の視点と上下が逆転し、南が上となり、デフォーメし描写した沿線名所も大幅に取捨。その分、より大勢の集客をねらった京王閣と高尾山、多摩御陵、それに富士山のみが前版にも増して巨大だ。当時の京王の沿線開発の意気込み、意向を巧みに汲みとっている初三郎の眼力と筆致が目を惹く。

また、なぜ改版なのか気になる。作品の副題「多摩御陵参拝近道」からの判断だが、刊行の翌昭和六年、北野から御陵前までの路線延長（京王御陵線）が敷設開通することを記念しての発注とみたがどうだろうか。